

ひろしまげんぱく おも
広島原爆の想い



かじん しょうしはん
歌人・書道師範
ねお ようこ
根尾 洋子

はかい せんそう げんぱく
1. 破壊（戦争・原爆）

☆エノラゲイの機長 逝きしもあの閃光

わが8歳の記憶は消えず

8月の灼熱の太陽が射すと、毎年あの日のことが悪夢のように思い出される。あの日は昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分、広島に原爆が投下された日で死者数は約140,000人といわれ、この3日後の1945年8月9日午前11時2分には長崎に原爆が投下された。死者数は約70,000人といわれる。（死者数は、広島・長崎ともに1945年12月末時点におけるものである。）

私の住んでいた町は爆心地から4～6キロほどの小高い山と海に面した広い範囲の位置にある。山には兵舎があり、時折、高射砲よりの煙がポカポカと空に浮かんでいるのを恐る恐る防空壕より見ていた。1945年4月、国民学校3年生以上は県北部へ学童疎開、1・2年生は近くの寺や公民館で勉強していた。

8月5日に3年生の小石さんが栄養失調で疎開先から戻ったので、翌日6日の朝7時頃、数人



かのじょ あ い そかい さき はなし き とき あおぞら ひか ひがし そら きた
 が彼女に会いに行き疎開先の話聞いていた。その時、蒼空にキラキラ光るB29が東の空を北
 ほうこう と み いえ かえ くうしゅうけいほう なだ いえ はい しばら
 方向へ飛んでいるのを見たので家へ帰ろうとした。空襲警報が鳴り出したが家に入って暫くして
 かいじょ ゆうじん ゆうじん じかん ちか てら む きた そら み あ
 解除された。やがて友人といつもの時間、近くのお寺へと向かった。ふと北の空を見上げると
 こんど ひがし にし と ちか ふろ や かいいたさぎょう ひと わたし さげ ごえ
 今度はB29が東から西へと飛んでいた。近くで風呂屋の解体作業をしていた人らも私の叫び声で
 そら み あ しゅんかん め くら せんこう はし もうれつ さくれつおん
 空を見上げた。その瞬間、目も眩むばかりの閃光が走った。猛烈な炸裂音がまさに「ピカッ・ドン」
 のあの熱く憎むべき光である。あまりの光の熱さに顔が焼けたのではないかと思っ、咄嗟にお
 てら まえ いえ なか と こ むがむらゆう いえ かえ きたかわ げんかん こわ
 寺の前の家の中に飛び込んだ。無我夢中で家に帰ると、北側の玄関のガラスはメチャメチャに壊
 れ、机は飛び、一部の天井板は外れており爆風の凄まじさを物語っていた。母と姉は幸いにも
 ひがい へ や ぶじ さんぎょうしょうれいかん げん げんぼく なか しょうこうそうだんしよしよちょう
 被害のない部屋にいて無事だった。産業奨励館(現・原爆ドーム)の中にある商工相談所所長だっ
 た父は、体調が優れず2階で寝ていて無事だった。ラジオではアナウンサーが「JOFK広島
 ほうそうきょく くれほうそうきょく ひつう こえ く かえ さげ こえ いま みみ のこ
 放送局。呉放送局へ。」と悲痛な声で繰り返していた。その叫ぶような声は今でも耳に残っている。
 NHKは爆心地から1キロに位置してただけにあのアナウンサーはどうなったのだろうか。空は
 まっくろ いなびかり はし ぶきみ しず こ あか かぞく はへん
 真っ黒になり稲光が走り不気味な静けさがつついた。その後、明るくなり家族でガラスの破片や
 てんじょう つちぼり そうじ ひるす ひろしま ちゅうしんぶ ひばく ひとたち つぎつぎ
 天井からの土埃の掃除をしていた。昼過ぎになってから広島市中心部で被爆した人達が次々と
 わが町に帰ってきた。背中が焼け爛れて皮膚の皮が剥がれた人、顔が黒く膨らんだ女の、人
 の顔とは思えないような人達が家の前を通った。疎開先から栄養失調で戻ってきていた小石さ
 んも自宅に寝ている間にガラスの破片で大怪我をした。

はは せ みず おさな こ
 ☆母の背で水とさけびし幼子に
 おや な こえ
 親の泣く声いまわすれし

わたし いえ まえ しんせき あそ き さい おんな こ ばくふう と
 私の家の前の親戚へよく遊びに来ていた5歳の女の子がいたが、マリつきをしていて爆風で飛
 ばされ逃げる途中、母親の背で「水、みず」と言っていて、ちよろちよろと出ている水を口に含
 ませたが、しばらくして死んでしまった為に被爆地に置いてきたという。又、母親も一週間後
 からだせんたい むらさき はんでん で な となり ひろしましちゅうしんぶ もくへん ひろ
 身体全体に紫の斑点が出て亡くなってしまった。隣のおばさんは、広島市中心部に木片を拾い
 に行つての帰路に閃光を浴び、炸裂音で耳が遠くなられた。また別のおじさんは勤務先付近で
 ある広島駅の1駅西側の横川というところで、被爆しながらも近くにいた人達を助けようと自分
 も一緒に川へ飛び込んで一ヶ月もしないうちに亡くなられた。また、当時は中学生や女学生達が
 がくどういん こうじょう かおく こわ しがいち はたら わ が で はい ひと まご
 学徒動員で工場や家屋を壊すために市街地で働いていた。我が家に出入りしていた人の孫もそ
 の一人で、何処で、どのようにして亡くなられたかがわからず、毎日、広島街を昼夜問わず捜
 し回っていた。それは痛ましい姿だった。

ひろしま まち みつ か みばんち あ ひ ま か そ ちか か そうば ひばく ま くる
 広島街は3日3晩燃え上がる火で真っ赤に染まっていた。近くの火葬場は被爆で真っ黒に

ひとたち う つ とうじ がっこう しゅうようじょ こうてい つぎつき な ひと
なった人達で埋め尽くされた。当時の学校は収容所となり、校庭には次々と亡くなっていく人
たち たぬ おお あな ほ か そう ば か なが あいだ たんすい せいかつ
達の為の大きな穴がいくつも掘られてか火葬場と化していった。長い間の断水、ローソク生活、
しょくりょう とほ まさ ひんこんせいかつ や の ほら とも じごく がつこのか ひろしま みつか ご げんぱく
食糧も乏しく正に貧困生活で焼け野原と共に地獄であった。8月9日、広島は3日後に原爆を
とうか ながさき おな じょうきょう おな くる
投下された長崎においても同じ状況であり、また同じ苦しみであった。

アメリカが投下した原爆は、一瞬で広島・長崎を死の街へと変えてしまった。生きたまま焼か
れ肉親を助けることも出来ず、一旦は死の淵から逃れた者も放射線に冒されて次々に倒れていっ
た。人の世とは思えない惨状で生き残ってもなお、心と体の苦しみに苛まれ続けている。

1945年8月15日の玉音放送があった日は、大人達から戦争に負けたと聞かされて、不気味なサ
イレンの音ももう聞くことはないし、防空壕にはい入らなくても良くなったのだとわかり、ようやく
戦争が終わって平和になるとの喜びを感じた日であった。

2. バブル (上昇気流)

60年間、草木も生えぬといわれた広島も、昭和21年(1946年)、原爆投下の翌年にはバラック
住宅や駅舎ができ、昭和40年(1965年)頃からは本格的な高層住宅の建築がすすみビル化して
いった。企業も人々も活気に満ち溢れていた。広島は6つの川のデルタ地帯であり、川を中心に
美しく清々しく、また緑豊かで近代化していったが、未だに外面は健康そうに見えても原子爆弾
の後遺症で苦しんでいる人が何十年たっても沢山いることを決して忘れてはならぬ。そして、二
度と愚かなことがないことを祈る。

☆川沿いの夾竹桃の咲きごぼれ

ヒロシマの川面は燃ゆるがごとく

※夾竹桃…原爆で60年間草木も生えないといわれた被爆焼土に、いち早く咲いた花といわれ、原爆か
らの復興のシンボルとして広島市の花となっている。

しかし、ついにバブルが弾けリーマンショックが追討ちをかける。

3. 現代(再生・平和)

戦後65年も過ぎた2010年の春。ゆっくりと広島駅から広島城近くまで歩いた。8月6日の夜、
元安川の死没者の霊を祈り灯籠流しをした。(元安川では8月6日原爆が投下された際に、熱線
や放射線、爆風で傷ついた多数の被爆者たちが水を求めてこの川まで来て亡くなった為、毎年
8月6日の夜には犠牲者を弔う灯籠流しが行われている。)

2011年3月11日、東日本大震災の日には父の墓参中の時刻、その日は平和公園へ行き“安らかに

ねむ くだ あやま くりかえ いれいひ いの いま せかい いさん げんぱく
 眠って下さい。過ちは繰返しませんから”の慰霊碑に祈った。今は、世界遺産「原爆ドーム」と
 になっているが、せんぜん さんぎょうしょうらいかん ちち きんむさき なか おも は
 戦前は産業奨励館であった父の勤務先を眺めながら想いを馳せていた。
 せかい ゆいいつ ひばくち ひろしま せかいじゅう がいこくじん おとず かくほゆうこく
 世界で唯一の被爆地である広島は世界中からたくさんの外国人が訪れる。核保有国の
 だいてうりょう ひとたち ぜひ いの こ き くだ ひろしまじょう せかい いさん みやじま
 大統領・トップの人達は、是非、ヒロシマへ祈りを込めて来て下さい。広島城や世界遺産「宮島」、
 しょく この や おだ ひろしまきしつ くだ
 食では「お好み焼き」。おいしいですよ。穏やかな広島気質にふれて下さい。

めぐ く しゃくねつも ひばくち
 ☆巡り来る灼熱燃ゆる被爆地に
 しろはと へいわ と ねんめ なつ
 白鳩（平和）の飛ぶ65年目の夏

たんかし はんしゃこう いちぶてんさい
 短歌誌「反射光」より一部転載

せかい
 世界のヒロシマ

ヒロシマよりせかい へ発信

peace

プロフィール

根尾 洋子 (たかつきざいじゅう 高槻在住)

ひばくしゃ みんせいじどういいん
 被爆者 民生児童委員

かじん しょうしはん
 歌人・書道師範